

決断主義トークラジオ Alive 2 ビューティフル・ドリーマー

今日のテーマ：セカイ系と公共性問題

1) 大塚英志と東浩紀の立場の違い

<新現実>の東浩紀と大塚英志の対談はふたりの対立が良く出ている。
基本的な対立構造は下記の通り。

大塚英志	東浩紀
近代	ポストモダン
人間	動物
他者を受け入れて 公共性を保つ	他者を受け入れない動物間に 公共性は発生しない
その手段としての 啓蒙	ので、それでもうまく回る ように管理

2) 「ゼロ年代の想像力」と公共性（政治の問題）

◆宇野は大塚派か、東派か？

⇒「公共性」（政治の問題）については東派

- 東ファンに宇野は大塚寄りだと思われている。
- でも実際はそうでもない。若干東寄りである。
- 宇野はまったく公共性の再構築なんて考えていないし、無理だと思う。
- せいぜい「デスノート」の夜神月のような「元気な奴（強力で自覚的な決断主義者）」が
暴れまわって、一時的に「ニセ公共性」みたいなものを演出するだけじゃないか。
- でもそんな「ニセ公共性」みたいなものをめぐって対立が起こるのが現代社会
（決断主義的バトルロワイヤル）。これは東的なポストモダン観自体とは矛盾しない。

（補足）

- もっと言ってしまうと宇野は広義のセカイ系については否定的ではない。
- そもそも「広義のセカイ系」だったら「恋空」も「デスノート」も当てはまる。
- 現に浅羽通明や鈴木謙介や仲正昌樹が使う「セカイ系」は常に広義。
- 東「セカイから、もっと近くへ」も広義
- 狭義のセカイ系を規定しているのは「セカイ系の困難」の解決方法の特殊さ
- それは九〇年代後半的厭世観と第三次アニメブーム的レイブ・ファンタジー
- 「ゼロ年代の想像力」のテーマは「セカイ系の困難」に対する敏感な反応は、
むしろ狭義のセカイ系にはなく別の系譜の想像力にあるのではないかと、ということ。